

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270101611		
法人名	株式会社 矢野工務店		
事業所名	なるたきグループホーム		
所在地	青森県青森市西大野5丁目7-6		
自己評価作成日	令和4年7月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和4年8月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・月毎の行事や利用者様の誕生日には催し物を行い、職員、利用者様共に楽しめるようにしている。 ・リビングに月毎の利用者様の作品や写真を貼り、利用者様同士で楽しんでいただけるようにしたり、交流を図れるようにしている。 ・近くにスーパーマーケットや公園、消防署がある。 ・平屋建ての建物であるため、ユニットに関係なく、利用者様同士の関わりやふれあい、交流の時間がある。 ・ターミナルケアに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に事業所独自の理念を掲げ、職員一同共有し、サービス提供に反映できるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の回覧板を通して行事を把握し、参加できるように心掛けたり、運営推進会議を通して町会長様や民生委員の方と情報交換を行い、地域との交流を図れるように努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の見学や相談の際は、利用者様のプライバシーに配慮しながら行っている。また、実習生の受け入れを行い、認知症について理解を得られるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、書面上でホームの様子を伝え、意見をいただいたり、情報交換して対応している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の内容を、市役所や地域包括センターの職員へ書面にて報告している。また、市役所へ自己評価の提出を行い、報告している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1度、身体拘束の委員会を開催し、ホームにて勉強会を行い、全職員への理解につなげている。居室には鍵を設けず、また、玄関の鍵は簡単な構造であり、利用者様の出入りを妨げないようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で高齢者虐待について勉強会を行い、全職員が理解するように努めている。また、職員一人ひとりの負担が重くなり過ぎないように対応をし、虐待を未然に防止するように努めている。		

なるたき(B棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームでの勉強会を通して、成年後見制度や日常生活自立支援事業を理解できるように取り組んでいる。また、玄関にパンフレットを置き、ご家族様や外部の方へ情報提供を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様や利用者様のお話を伺い、理解、同意を得ながら、ホームの方針や取り組み、料金等の説明を行っている。また、改訂時もお知らせしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様との日々の関わりの中から、不満や要望を察することができるように努めている。また、ご家族様へは契約時に苦情相談窓口について説明したり、毎月、利用者様の近況を手紙で送り、報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームでの決定事項や新規の利用者様の受け入れ等について、ミーティング時に報告し、職員と情報共有を図っている。その他、カンファレンスや日頃の職員からの意見、提案を可能な限り取り入れながら、より良いサービスへつなげるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの経験年数や資格、実績等を踏まえた上で、職員がやりがいを持って働けるよう、環境整備に努めている。また、定期的に健康診断を行ったり、就業規則がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修受講後は報告書を作成している。また、年間研修計画を作成し、それに沿ってホームで勉強会を開催して、内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームから、新型コロナウイルスの対応等の情報交換を電話にて行い、対策を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時、ご家族様や利用者様の希望や身体状況等を把握するためにも面談し、直接お話を聞く機会を設けている。また、お話を伺いながら、信頼関係を築けるように意識している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用の相談があった際はご家族様と面談し、直接お話を聞く機会を設けている。要望を伺いながら、ご家族様の思いやニーズの把握に努め、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談の際にご家族様やご本人様のお話を伺いながら、必要なサービスを見極め、こちらで対応できる事、困難な事についてお話をし、ご本人様へ適切なサービスが提供できるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の好きな事、できる事の把握や理解に努め、発揮できるように対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、利用者様の様子をお手紙にて報告している。また、面会時やお電話にて利用者様の現状を伝え、情報を共有し、共に支え合える関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	アセスメントシートの活用の他、利用者様やご家族様からの情報により、馴染みの場所等の把握を行っている。また、利用者様とご家族様との電話や手紙でのやり取りを支援し、関係が途切れないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は日々の生活から、利用者様同士の人間関係を把握している。利用者様同士のコミュニケーションが円滑に図れるよう、職員が仲介し、孤立しないように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後もご家族様から要望やご希望があれば、ご相談に応じる等の対応をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が日々のケアの中から、利用者様一人ひとりの希望や意向を把握できるように努めている。また、ご家族様から情報収集を行い、参考にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートの活用その他、プライバシーに配慮しながら、ご本人様やご家族様から情報収集を行い、生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の一日の暮らし方や食事、排泄、睡眠等、生活リズムを個人記録に記載し、現状を把握している。また、定期的にあセスメントを行い、把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、担当職員同士によるカンファレンスを行っている。また、ご家族様やご本人様からの情報やカンファレンスでの意見を基に、介護計画を作成している。定期的にモニタリングを行い、見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様一人ひとりの日々の様子や身体状況、実施したケア内容等、具体的に個人記録に記載している。また、記録の内容は職員全員が把握、共有できるようにし、介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族様の暮らしの継続性を支援できるよう、また、柔軟な対応ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や町内会長様から情報収集を行っている。また、緊急時等、何かあった際には協力を得られるように呼びかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受診結果により受診状況を把握している。ご家族様やご本人様の希望に合わせ、対応できるようにしている。必要に応じて、歯科や眼科受診の対応も行っている。受診結果はご家族様へ報告している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問診察時に利用者様の状態を報告している。その他、利用者様の状態変化があった際は担当看護師へ報告し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換やご家族様との話し合いを行い、利用者様の現状を確認、把握し、退院に向けた対応を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期について説明し、ご家族様の意向を確認して、書面に記載していただいている。また、重度化した場合も含め、施設での対応が可能な事や困難な事をご家族様へ伝えたり、お話を伺ったりし、医療機関を含めた三者での話し合い、連携を図って対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変時や事故発生時の対応方法マニュアルを作成している。また、応急手当や救急救命の勉強会を、園内研修にて行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間も想定した避難訓練を行い、職員全員が避難方法を身につけられるようにしている。また、設備の定期点検を行った後、非常食や備品を用意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者様の守秘義務や個人情報の取り扱いを把握し、また、園内研修を行い、プライバシーへの配慮、利用者様の尊厳を損なわないような声掛け、対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様一人ひとりに合わせて、表情や反応から思いを汲み取ったり、選択肢を提示して自己決定ができるように働きかけ、対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりのその日の体調や精神状況に配慮しながら、その人のペースで過ごすことができるよう、要望を取り入れながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様個人のおしゃれの好みの把握に努め、洋服選びや化粧を促したり、衣類等が乱れていた際には声をかける等、速やかに対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の嗜好を把握しながら献立作成をしている。また、おしぼり作りやエプロンたたみ等、職員と一緒にできるように支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分量を個人記録に記載し、把握できるようにしている。また、体調不良時や状態の低下等の際は、代替食やトロミの使用、食事形態を検討しながら、栄養バランスが低下しないように対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや洗面所への誘導を行ったり、口腔ケアを忘れてしまっている利用者様へ促し声掛けを行う等、一人ひとりに合わせた対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、記録に記載している。プライバシーに配慮しながら声掛けを行い、対応している。また、カンファレンスの際には、パットの使用等の見直しを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘防止につながるよう、利用者様一人ひとりの排便状況、食事・水分量を個人記録に記載・把握し、乳飲料やオリゴ糖を活用したり、状況に応じて下剤の活用や運動を行い、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	アセスメントシートや日頃の関わりの中から、一人ひとりの入浴の好みや習慣を把握し、対応している。また、入浴時には、利用者様の羞恥心や体調、負担感に配慮し、対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのその日の状態に合わせ、休息を取り入れたり、促している。また、担当医と相談しながら眠剤を活用し、生活リズムが崩れないよう、夜間の安眠の対応に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に処方カード用紙を挟め、全職員が薬の内容を把握できるようにしている。また、服薬時には職員同士で声をかけあい、確認し、誤薬防止や飲み忘れ防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人ひとりの日々の関わりの中から好みやできる事を把握し、洗濯物たたみや点つなぎパズル、歩行運動等を促すことで、役割や日々の暮らしの中に楽しみ事ができるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	アセスメントや日々の関わりの中から、利用者様の行きたい場所を把握したり、体調に合わせ、気分転換につながるよう、日光浴や散歩等の対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在の利用者様の状態では自ら金銭管理を行うことが困難であるため、ご家族様の同意を得て、ホームにて金品を預かり、対応している。また、毎月お小遣い帳のコピーをご家族様へ送り、報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様から電話やメッセージカードが送られてきたり、利用者様からの希望・要望があれば、プライバシーに配慮しながら、手紙や電話の対応を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには日めくりカレンダーや季節毎に塗り絵や折り紙、行事の写真を貼っている。また、加湿器や空気清浄機を置いて、温度や湿度の確認を行い、快適な環境作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、ソファやテーブル席を設け、利用者様同士の関係性に配慮しながら、一人ひとり思い思いに過ごすことができるよう、促している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様へは入所時に馴染みのある物の持参の協力を働きかけたり、利用者様の好みを把握し、一人ひとりに合わせた居室作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室には目印を付けたり、利用者様の動線となる所には、邪魔になるような物や混乱を招くような物を置かないように対応をし、できるだけ自立して安全な生活を送れるように努めている。		